

## 1-1 わかっているようで実はよくわかっていない関係代名詞と関係副詞の違い

### 1 関係代名詞と関係副詞の違いは本当に理解できているか？

関係詞の含まれる文は2文の結合であることは、前章でおわかりいただけたと思います。さて、関係詞には関係代名詞と関係副詞という2種類のものがあることはご存知でしょう（厳密には「関係形容詞」と呼ばれるものもあるのですが、それはp.169から詳しく扱います）が、両者は一体何が違うのか、正確におわかりでしょうか？

### 2 「場所が先行詞ならwhere」という覚え方の誤解

次の文の空所に入れるべき関係詞は何でしょうか？

China is a country ( ) I've long wanted to visit.

1. which 2. where 3. in which 4. when 5. to which

「中国は私が以前から長い間訪れたいと思っている国だ」

反射的に2のwhereを選んだ方はいらっしゃいませんか。正解はwhereではなく、1のwhich、つまり関係代名詞なのです。間違えた方は「場所が先行詞ならwhereを入れるのでは？」と判断された（あるいはそう教わった）のではないのでしょうか。これは、中学生の頃に初めて関係詞を習ったときに、「人」ならwho、「物」ならwhich」という覚え方を、「場所」ならwhere、「時」ならwhen」と広げてしまいがちであることも、一因かと思われます。

「関係副詞か関係代名詞かの区別には、先行詞はまったく関係ない」ということをまず押さえてください。関係代名詞か関係副詞の区別はすべて、後続に名詞欠落文が来るかどうかで決まるのです。

上の問題文をもう一度見てみましょう。

▶ China is a country ( ) I've long wanted to visit ●.

ここでは他動詞visitの目的語が空席になっています。つまり( )に入るのは関係副詞ではなく、関係代名詞の目的格whichです。（選

択肢にはありませんがthatも使えます。また目的格は省略可能なので、「何も入れない」ことも可能です）

- China is a country which I've long wanted to visit. (○)
- China is a country that I've long wanted to visit. (○)
- China is a country I've long wanted to visit. (○)

では、関係副詞が使われるのはどのような場合でしょうか？

- China is a country where I've long wanted to go.

今度は正真正銘whereが入ります。goはvisitと異なり自動詞なので後ろに“空席”がない（「行く」の意味では目的語をとらない）からです。逆に、「ある国へ行く」と言いたい場合は前置詞toが必要になります。

I've long wanted to go a country. (×)

I've long wanted to go to a country. (○)

このto a countryの部分は「前置詞＋名詞」、すなわち「副詞句」ですから、1語の副詞thereに置き換えることができます。ここでもうおわかりと思いますが、このthereを関係詞に変えたものが関係副詞whereです。

I've long wanted to go to a country. ⇒ to go there  
前置詞＋名詞 副詞

thereを関係副詞whereに変え、前に移動

⇒ a county **where** I've always wanted to go (○)

ここで前置詞toを残すなら、toの後ろに名詞が欠落する形となるので、関係代名詞（whichもしくはthat、ないしは省略）を用いるのです。

⇒ China is a country (**which / that**) I've long wanted to go to ●.

つまり、簡単に言うなら、関係代名詞か関係副詞かは後続の形で決まります。「場所が先行詞だからwhere」とか、「時が先行詞だからwhen」などというのは、誤解を招きがちな覚え方と言えるでしょう。

#### 《 関係代名詞か関係副詞かの区別 》

先行詞の種類（場所、時など）で決まるのではなく、  
後続が「名詞欠落文」か「完全文」かで決まる

では、確認のためにいくつか問題をやってみましょう。与えられた日本文に合うように、( ) に適切な関係詞を入れてください。

1. 「ここはその夏祭で有名な村です」

This is a village ( ) is famous for the summer festival.

2. 「これはある有名な建築家設計の家です」

This is a house ( ) was designed by a famous architect.

3. 「なぜだかわからない理由で彼はパーティに来るのを拒んだ」

For reasons ( ) I couldn't understand, he refused to come to the party.

1はisの主語が欠けており、2はwasの主語が欠けているので、関係副詞whereではなく関係代名詞・主格のwhich(またはthat)を入れます。3はunderstandの目的語がないので、関係副詞whyではなく関係代名詞・目的格のwhich(またはthatあるいは省略)を入れます。

### 3 「関係“副詞”」なのに名詞を修飾？

受験参考書などに見られる記述について、よく次のような質問を受けることがあります。

「『関係副詞節は形容詞節として先行詞となる名詞を修飾する』とありますが、「副詞」なのにどうして名詞を修飾できるのですか？」

名詞を修飾するのは形容詞で、副詞は名詞を修飾しないと教えられた後で上のような記述を見れば、「???」となるのもやむなしという気がしなくもありませんが、明らかにこれは混乱しています。正確に言えば、「関係副詞」が名詞を修飾するわけではありません。「関係副詞の導く節全体」が名詞(先行詞)を修飾するのです。「形容詞節」とは、関係副詞以下の節全体の働き(名詞を修飾)を指しているのです。例で考えてみましょう。

• 「ここは彼が生まれた場所だ」

This is the place where he was born.  
 名詞 ↑ 形容詞節

☞ where以下bornまでの節全体が名詞(the place)を修飾

ではなぜ、「関係“副詞”」と呼ぶのでしょうか？ いまだにじっくり

こない方もいるかもしれません。例によって上の文を2文に分解してみます。

① This is the place. ここが例の場所だ

② he was born **there** **そこで**彼が生まれた

この②におけるthereは副詞でhe was bornのbornを修飾しています。この副詞thereに文をつなぐ接続詞の働きを付与したもので、つまり関係副詞がwhereとなるわけです。

He was born **there** ⇒ **where** に変えて前に移動

➔ This is the place **where** he was born.

つまり、thereの代わりであるwhereは後ろのwas bornという動詞を修飾するから「副詞」なのであって、where自体が名詞であるthe placeを修飾しているわけではありません。名詞the placeを修飾しているのはwhere以下の導く節全体なのです。したがって、この節全体が「形容詞節」と呼ばれることもわかりだと思えます。

This is the place where he was born  
 名詞 ← 節全体=形容詞節

▶ **where** he was born

↑ ☞ where (there) は was born を修飾  
 there

### まとめ

□ 関係代名詞か関係副詞かの使い分け：

場所が先行詞だからwhereとは限らない

☞ 先行詞の種類(場所、時など)ではなく、後続の構造(完全文か名詞欠落文か)に注目する。

□ 用語の意味を正しくおさえないと誤解の元

☞ 「関係副詞」が「名詞」を修飾するのではなく、「関係副詞の導く節」が名詞を修飾する